

私が最も刺激を受けたのは、英語と数学の習熟度別授業です。特に、中学3年生から始まった英語の習熟度別授業では、応用クラスで授業を受けていましたが、そのときに周りで受けていたレベルの高い人たちの影響を受けて自分の英語学習に火がつかしました。また、高3の数学の授業では、大学の過去問を扱うことで、教科書レベルの復習と発展的な内容の学習を兼ねることができたので数学の力を伸ばすことができました。また、放課後の課外では、現代文の読解問題や英作文の学習をしていました。普段自宅で一人ではなかなか勉強することのできない単元も勉強することができたので良かったです。さらに、受験期には終始先生方に手厚くご指導していただきました。受験期の前半には、個別面談で自分の弱点分野から勉強計画の立て方を教えていただき、受験期の後半には各教科の添削指導、筆記問題の対策冊子の作成、志願理由書の添削、面接指導等多くのサポートをしていただきました。これらのご指導のおかげで、自信を持って試験に臨むことができました。先生方には、非常に感謝しています。

部活動では、努力が形となって現れたことが非常に良い思い出になりました。中学1年生の時は、多くの初心者で、運動系の習い事をしていただけでもなかったもので、運動が得意な方ではなかったです。しかし、辛くもあり楽しくもある練習を日々重ねていくことで、徐々に体の動かし方を学んでいき、気づけば高校3年生になって自分達で練習メニューを考え、練習の意味を考えながら真剣に取り組むことで最終的には県大会に出場し、ベスト16という成績を残すことができました。部活動が終わってから、県立図書館や駅前で眠い目を擦りながら勉強していたこともとても印象に残っています。また、中学1、2年生、高校1、2年生の間ずっと生徒会に参加させていただきました。予算案の作成、ベルマークの集計、公約の実現、クラスマッチの運営など多くの貴重な経験ができました。毎週4日程度お昼休みに生徒会室にいたので生徒会室は私にとって思い出深い場所です。特にクラスマッチの代替案を考えている時や自分の公約について案をまとめている時には、学校の関係者の方々を考慮することで出てくる問題が次から次へと現れてきたので、自分の視野の狭さを痛感することができた活動でもあります。また、それを通して視野をできるだけ広げ、自分の意見をわかりやすく伝えることができるようになったと思います。部活動も生徒会も私を成長させてくれた非常に意義深い活動でした。

茨中・茨高の良いところは、学校生活以外の活動に参加できる機会を多くいただけることです。例えば、私は数学ジュニアオリンピック、数学オリンピック、数学甲子園、科学の甲子園、数学のワークショップ、高エネルギー加速器研究機構での講演会などに参加させていただきました。これらの活動は全て、学校に掲載されているポスターや友人や先生方からのお誘いで知りました。中学3年生の時に受験勉強ではなく、こうした活動にも参加できるのでとても意欲的に活動できる恵まれた環境だと思っています。そして、これらの活動は身の回りの機器を題材にしているものが多かったため、現在の「工学部」という進路選択につながっていると感じています。

大学進学後は材料工学（特にスピントロニクス工学）について深く学び、スタートアップガレージや留学制度を利用してグローバルな起業をしていきたいです。そのためにも、この素晴らしい学舎で得られた経験を糧とし、「報恩感謝」という信念を貫き、時代の先駆者となれるよう日々精進して参ります。